

令和 4 年 6 月 2 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(S)

研究期間：2016～2020

課題番号：16H06318

研究課題名（和文）「アフリカ潜在力」と現代世界の困難の克服：人類の未来を展望する総合的地域研究

研究課題名（英文）"African Potential" and overcoming the difficulties of modern world:  
Comprehensive area studies that will provide a new perspective for the future of  
humanity

研究代表者

松田 素二 (MATSUDA, Motoji)

京都大学・アフリカ地域研究資料センター・特任教授

研究者番号：50173852

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 141,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、アフリカを一方的な同情と救済（開発支援）の対象とみなしてきた従来の認識を刷新し、アフリカが有する問題解決と発展への潜在力（アフリカ潜在力）を解明して、それが人類社会の未来に対して貢献できる可能性を学際的かつ総合的に考察した。紛争や環境破壊、ジェンダー格差といった具体的な「問題」が、アフリカ的な思考と実践によって解決可能なことを明らかにし、それを通して人間や社会、歴史に関するこれまでの知のあり方を批判的に相対化した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

現代社会が直面している多様な困難に対して、「アフリカ潜在力」という視点を通して実践的に解決していく可能性を提示し、同時にそれを理論化することに成功した。それによって、「アフリカ潜在力」を支える思考や知の様式が、人文知のなかでこれまで支配的な地位を独占してきた西欧近代出自の知の様式とは異なる視点と思考を創り出していることを明らかにし、21世紀の人類社会の知の地平を拓き、新しい人文知の様式を創出することに貢献した。

研究成果の概要（英文）：In this study, we reaffirm the conventional perception of Africa as a target of unilateral sympathy and relief (development support) and explore its potential for problem-solving and development (African potentials). We consider the possibility that it might contribute to the future of human society in an interdisciplinary and comprehensive manner. Our findings reveal that concrete 'problems', such as conflict, environmental destruction and gender inequality, may be resolved through African thinking and practice. Through this exploration, we critically relativize the conventional state of knowledge regarding Africa's people, society and history.

研究分野：文化人類学およびアフリカ地域研究

キーワード：アフリカ潜在力 コンヴィヴィアリティ 不完全性 ブリコラージュ

### 1. 研究開始当初の背景

紛争や環境破壊、貧困、格差拡大など、現代世界は多様な困難に満ちあふれている。とりわけこうした困難が極端な形で大量に出現しているのが現代アフリカ社会である。かつて日本社会において支配的だったアフリカ・イメージは、「未開」と「野生の王国」だった。しかし20世紀末になるとアフリカを表す言葉は、「悲惨」と「絶望」に転換した。戦争と大量殺戮が間断なく生起し、国民経済も崩壊した。アフリカは、グローバル社会の「お荷物」として同情と救済の対象とされたのである。

だが、このアフリカ・イメージは21世紀に入って一変する。21世紀のアフリカは豊富な天然資源を背景にグローバル経済を牽引する成長の機関車に変貌した。日本政府もアフリカを「成長に向けたパートナー」と位置づけ、世界経済成長の原動力として称えるようになった。しかしこうした光明と希望の半面、「絶望」の時代からの問題は形を変えてより深刻化している。再配分の不平等は、社会の格差を極大化しつつあるし、環境劣化も深刻さを増している。さらに宗教や民族的対立の外見をとった紛争や衝突が激化しており、引き裂かれた社会関係の修復と和解はいまだに達成されていない。

### 2. 研究の目的

現代世界、とりわけアフリカ社会が直面している困難に対して、どのように対処し解決をはかることが可能なのだろうか。これまでの研究は、大別すると二つの立場からなされてきた。一つは、困難を乗り越える方策を、西欧近代に出自をもつ思考や価値観にもとづく様々な方法に求めていく立場であり、もう一つは、それらをアフリカ社会が生成・発展させてきた思考や価値観に求める立場である。ところが前者の方法 西欧近代社会の基盤となった思想や価値観に由来する問題解決の方法 は、多くの場合、アフリカの問題発生現場においては、現実から乖離しているために十分な効果を達成できないばかりか、悲惨な状況を固定化してしまうこともある。

本研究は、こうした事態を打開するために、さまざまな困難に直面したアフリカ社会がみずから創出し活用してきた問題解決のための潜在力を解明し、それをとおして、現代世界が直面している困難を克服し人類社会の未来に対して貢献する可能性を総合的に検討することを目的としている。従来の西欧近代出自の思考と発想は、アフリカ出自の知識や思想、価値観を無視し貶めてきた、本研究は、アフリカ社会のもつダイナミックな問題対処能力を「アフリカ潜在力」として抽出・概念化し、それを活用することで困難の解決を実践的・理論的に展望する。「アフリカ潜在力」とは、アフリカ社会が外部世界との折衝・交渉のなかで創造し実践・運用・生成してきた問題解決のための動態的な力であり、アフリカ社会が直面している種々の困難を乗り越え、状況を変革するための有効で実践的な方策を指している。

これまで述べてきた実践的な目的とともに、本研究が展望するのは、「アフリカ潜在力」を支える価値観や思想を、人間や社会、歴史とは何かを根源的に問うためのもう一つの知の様式として定立することである。こうした試みをおして、「アフリカ潜在力」の母胎となる知の様式を、アフリカ発の新たな人文・社会科学的な知として世界に発信することを目指した。

### 3. 研究の方法

本研究は、人文・社会科学、それに生態学などの自然科学の諸領域を専門とする研究者が領域を超えて連携・協働する学際的な組織によって実施された。その手法の核心は、アフリカ社会の具体的現場(フィールド)における日常的営為に視点を据え、そこで生起する問題の実相と解決のための実践と思考を、現場から学びながら対象化するというフィールドワーク主義である。

また、アフリカ各地(東、西、南部、北東)の現場で研究を蓄積してきたアフリカ人研究者とともに、毎年アフリカ各地で「アフリカ・フォーラム」を開催し、「アフリカ潜在力」の概念化について持続的で組織的な共同作業を行い、その取りまとめとして「京都フォーラム」を実施した。東アフリカからは Edward Kirumira(マケレレ大学)、Kennedy Mkutu(アメリカ国際大学)、西アフリカからは Yaw Ofosu-Kusi(ガーナ・エネルギー・自然資源大学)、南部アフリカは Michael Neocosmos(ローズ大学)、Francis Nyamnjoh(ケープタウン大学)、北東アフリカからは Gebre Yntiso(ジンカ大学)、Samson Wassara(バール・エル・ガザール大学)など、専門を異とする第一線の人文・社会科学の研究者が「アフリカ潜在力」の解明と概念化の共同作業に従事し、「アフリカ・フォーラム」では日本側コアメンバーとともに座長および討論者として、全員でフォーラムを牽引し成果を共有した。

研究組織の運営に関しては、専門分野や研究対象地域、研究トピックも多様であって、ともすれば拡散しがちなメンバー間の有機的連携をはかり、方向を共有するために、三つの系(「自然・介入」「社会・共生」「身体・継承」)に、「環境・生態」「開発・生業」「国家・市民」「対立・共

生」「ジェンダー・セクシュアリティ」「言語・文学」「教育・社会」の7研究グループを組織し、各研究グループの活動にほかの研究グループのメンバーが相互乗り入れする方法を導入した。さらには、各研究グループの活動と議論の成果を学際的に統合するために、総括班メンバーが複数の研究グループに帰属する制度を構築し、このメンバーを通してグループ間の横断的なつながりと連携を促進させる仕組みを確立した。研究グループの研究会は70回を超え、それらの成果を連携させ共有するための「全体会議」も合計19回実施した。

研究を進めるうえで起こりうる問題への対処方法についても十分に検討をした。アフリカ社会では、国際的・地域的な政治力学と、今なお再生・強化されている植民地支配の影響によって紛争や内戦が頻発しているため、本プロジェクトが対象とした地域に関わるものだけでも、エチオピア（オロモ問題）、ケニア（選挙後紛争）、南スーダン（内戦）、ジンバブエ（クーデター）、南アフリカ（ゼノフォビアと社会的抗議運動）、ナイジェリアとニジェール（イスラム原理主義）などで予定していたフィールドワークが実施できなくなる事例が出現した。しかし調査担当者は、あらかじめ本プロジェクトの事務局と相談しつつ、こうした場合の代替案を準備しており、当該国内の比較的影響の小さい地域や近隣社会において、予定していた現地調査を実施することができた。

また、本プロジェクトの最終年度には、アフリカ社会においても新型コロナウイルス感染症が拡大し、予定していた研究集会や現地調査が実施できなくなった。これについては、現地の研究者やコミュニティとオンラインによる打ち合わせや情報入手をすることなどで対応した。

本プロジェクトでは毎年、アフリカ各地において当該国と周辺国のアフリカ人研究者や開発実践家とともに3日間の「アフリカ・フォーラム」をセミ・クローズドの形式で実施した。具体的には、カンパラ（ウガンダ）、グラハムズタウン（南アフリカ）、アクラ（ガーナ）、ルサカ（ザンビア）で開催したが、最終年度に予定していたタンザニアでのフォーラムは（2020年11月予定）コロナ禍のために延期した。その研究経費は2021年度に繰越しをし、2021年11月にフォーラムをタンザニアや南アフリカで開催する可能性を検討したが、コロナ禍の継続のために実施を断念した。その代わりに参加予定者の寄稿を募って「アフリカ潜在力」最終総括論集をアフリカの出版社から英文で刊行し、成果のまとめを行った。

#### 4. 研究成果

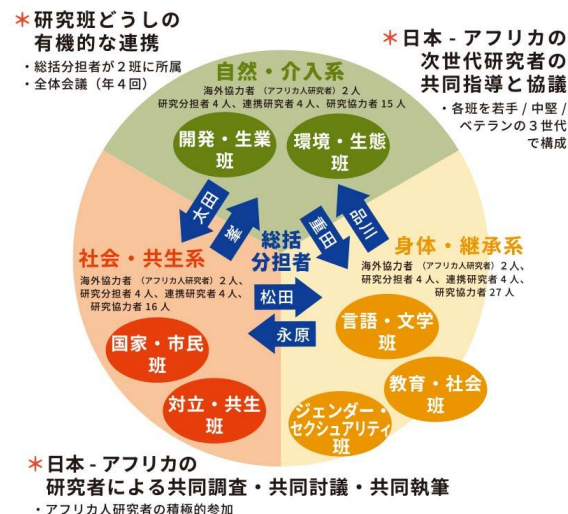
本プロジェクトの最大の研究成果は、共同研究で得た新たな知見を5年間で9冊の英文論文集としてアフリカの出版社から刊行した点である。これらは、アフリカ社会を研究するアフリカ人をはじめとして、世界中の研究者の成果を取りまとめてロンドンから発信している「African Books Collective」のウェブサイト「African Potentials」のカテゴリーが設けられ、そこで紹介されている。

さらに特筆すべき点の一つは、これらの9冊が、すべて日本人の研究分担者とアフリカ人の研究協力者の共同編集によって、日本とアフリカ側双方の研究メンバーによる共同作業として刊行されている点であり、さらにアフリカ人の研究者がアクセスしやすいアフリカの学術出版社（カメルーンのLangaa RPCIG社）から出版されている点も特徴である。

また、5年間の研究グループ活動の総括として、各研究グループ（「環境・生態」「開発・生業」「国家・市民」「対立・共生」「ジェンダー・セクシュアリティ」「言語・文学」「知識・教育」の7班）がそれぞれ一巻を担当し、アフリカ人共同研究者と共編で「アフリカ潜在力」に関する理論的・実証的成果をまとめた、African Potentials: Convivial Perspectives for the Future of Humanity シリーズ全7巻（総編集者は研究代表者）は、もっとも強調すべき成果である。このシリーズは、総編集者以外に19人の編者によって構成されているが、その内訳は日本側編者11名、アフリカ側編者8名であり、双方の編者の密接な協働による編集作業を経て完成した。さらに編者の構成にはジェンダー視点も導入し、男性編者11名に対して女性編者8名と、半々の目標は達成できなかったものの、従来の日本におけるアフリカ研究が男性中心的な傾向をもっていった点を改善することができた。

このシリーズ全7巻の総括として、本プロジェクトの5年間、「アフリカ潜在力」について毎年実施したアフリカ・フォーラムにおいて共同討議を積み重ねて来た、アフリカと日本のプロジェクト・コアメンバーによる論文集を、2022年3月に刊行した。これもまた、研究代表者を含

#### アフリカが直面する困難をカバーする3系7班の研究組織



むアフリカと日本側の研究者の共編によるもので、アフリカ側7人と日本側6人が「アフリカ潜在力」のキーワードを一つ選んで、それについての論考を繋いでいくというユニークな形式の論集である。この論集は「アフリカ潜在力」の理論的到達点を示したのものとして、アフリカ系アメリカ人研究を牽引している国際人類学民族学連合会長の Faye Harrison や、解放的アフリカ哲学を唱える Ato Sekyi-Otu などから高評価を得ている。

以上の成果に加えて、以下のような達成点も重要な成果としてあげることができる。第一に、日本人研究者とアフリカ人研究者が、欧米の学会や学術研究組織を介することなく、直接かつ持続的に交流しユニークなネットワークを構築した点である。これまでグローバルなアフリカ研究や学術研究は、欧米の学会組織や媒体、あるいはそこで暗黙の了解とされてきた知的グラマーを前提に行われ、アフリカ人も日本人もこれを介して交流することが多かった。それとは別に、日本人研究者が自分の(フィールド)調査の過程で現地のアフリカ人研究者と出会い、協働することは少なくなかったが、その場合には、両者の交流は専門領域や地域に限定され、個人をベースに行われてきた。しかし本プロジェクトでは、研究分野や調査地域の境界を超えて、異なる専門分野に属し、異なる学問的背景をもつ日本とアフリカの研究者が、「アフリカ潜在力」の解明という一点に徹底して取り組み、持続的で定期的な共同討議を行い、その成果を共同で連続的に刊行することを積み重ねてきた。

たとえば、コロナ禍のために最終年度には実施できなかったが、それまで毎年開催したアフリカ・フォーラム(カンパラ、グラハムズタウン、アクラ、ルサカ)と京都フォーラムにおいては、38人のアフリカ人研究者と31人の日本人研究者が報告し、共同で討議を進展させてきた。またそこには研究者のみならず、NPOなどの開発支援の実践家や外交官、国際機関職員、政府諮問委員なども参加し、セミ・クローズドで実施したフォーラムではあったものの、総計は200名を超える人びとが参加してアフリカ潜在力の実現性に関する検討を行った。

その結果、当然ながら強固なネットワークの基盤が構築され、それを継承・発展すべく、それぞれが次世代の研究者をそのネットワークに組み込む作業を意識的に行ってきた。シリーズ全7巻の書籍の中には、こうした次世代のネットワークを牽引する中堅研究者が多数、編者として参加している。この持続的ネットワークは、今後の日本とアフリカの学術交流において中心的な役割を担うことが期待できる。

第二の成果は、論文集の刊行だけでなく、様々な国際学会や国際研究集会を活用して「アフリカ潜在力」のパネルを設け、この概念についての発信と疑問や批判も含めた対話を実施したことである。たとえば2017年6月の第7回ヨーロッパ・アフリカ学会(バーゼル)では「アフリカ潜在力」概念の有効性を報告し、同11月の第60回全米アフリカ学会(シカゴ)では「土地問題」をテーマにした「アフリカ潜在力」分科会、2018年7月の第16回国際人類学・民族学連合世界大会(フロリアノポリス、ブラジル)ではジェンダー・セクシュアリティ班を中心とした分科会、第4回世界社会科学フォーラム(福岡)では「アフリカ潜在力」分科会、そして2020年2月には開発・生業班メンバーを中心に主催した「アフリカの地場製造業」をテーマにした国際ワークショップなどを開催し、国際的な発信を行ってきた。

第三の成果は、大学院生を中心とする次世代研究者の教育支援である。毎年開催したアフリカ・フォーラムにおいては、アフリカ人と日本人の次世代研究者の共同育成を掲げて、彼/彼女らを対象としたポスターセッションを設定し、アフリカ人12名、日本人9名がポスター報告を行い、参加メンバーとの有益な意見交流を行った。ほかに本プロジェクトでは「アフリカ潜在力」の解明というテーマに関わる次世代研究者のフィールド調査を支援する制度を導入し、23名がその制度で現地調査を実施して、その成果報告会(アフリカ潜在力セミナー)をプロジェクトの全体会議に併せて開催した。彼/彼女らは、アフリカ潜在力プロジェクトで構築された日本とアフリカの研究ネットワークを今後担っていく人材となることが期待できる。

また、本プロジェクトでは日本とアフリカの研究者がアフリカの現地で共同調査を行い、「アフリカ潜在力」の実態と可能性を検討することを目的としていたが、アフリカ人の中心的な研究協力者が4名、京都大学に客員教授として長期滞在し、学部学生や大学院生への教育や研究指導を担当することで、アフリカ地域を超えてプロジェクト外部にネットワークが広がり、次世代研究者に大きな影響を与えることができたことも大きな成果となった。アフリカ人のコアメンバーが勤務している大学を中心として、日本学術振興会による二つの二国間交流事業(南アフリカとウガンダ)が誕生し、日本からアフリカに調査・交流におもむくだけでなく、アフリカ人が日本に調査・交流にくることをとおして、「アフリカ潜在力」概念を拡張すること、グローバル化の中で周縁化されてきた非西洋圏の知的可能性を探究することができた。

社会への成果の発信として、ホームページでの研究内容の公開を充実させ、公開講座・講演会の開催、京都大学アカデミックデイ「研究者と立ち話」に本プロジェクトのブースを設けて参加、また新聞などを通じて十分に行った。公開講座および講演会、「研究者と立ち話」には多数の参加があり活発な質疑応答ができ、多くの方に関心を持ってもらえたこともうれしい成果である。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計131件（うち査読付論文 46件 / うち国際共著 17件 / うちオープンアクセス 56件）

1. 著者名 松田素二	4. 巻 第19号
2. 論文標題 学問と社会のコンヴィヴィアルな関係 「社会学は死んだか」シンボから考えたこと	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 フォーラム現代社会学	6. 最初と最後の頁 83-91
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20791/ksr.19.0_83	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Ochiai, T.	4. 巻 14(6)
2. 論文標題 Matacong Island: A Short History of a Small Island on the West Coast of Africa.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Hungarian Journal of African Studies	6. 最初と最後の頁 8-43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15170/AT.2020.14.6.1.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Matsuda, M.	4. 巻 9, Supplement 2
2. 論文標題 Legitimacy in Conviviality? Learning from Legitimacy: Ethnographic and Theoretical Insights	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 URBANITIES Journal of Urban Ethnography	6. 最初と最後の頁 83-86
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋基樹	4. 巻 2019年9月3日号
2. 論文標題 膨らむ債務 農業の革新と工業化が必須	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 エコノミスト	6. 最初と最後の頁 75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ohta, I.	4. 巻 40 (2-3)
2. 論文標題 Rules and Negotiations: Livestock Ownership among the Turkana in Northwestern Kenya	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 African Study Monographs	6. 最初と最後の頁 109-131
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14989/244853	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 阿部利洋	4. 巻 679
2. 論文標題 南アフリカの移行期正義とその後 和解・ローカルオーナーシップ・意図せざる結果	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国際問題	6. 最初と最後の頁 36-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武内進一	4. 巻 117(1)
2. 論文標題 内戦後の土地問題とピネイロ諸原則 ルワンダ・ブルンジの比較から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国際法外交雑誌	6. 最初と最後の頁 181-189
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Matsuda, Motoji	4. 巻 Online First
2. 論文標題 A Genesis of Street Communitary: With Special Reference to the Political Culture of Street Violence in Nairobi	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Diogenes	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/0392192117740035	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 峯陽一	4. 巻 2017年9月号
2. 論文標題 「南」の地政学 アジア主義からアフラシアの交歓に向かって	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 88-97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Meguro, Toshio	4. 巻 22
2. 論文標題 Gaps between the Innovativeness of the Maasai Olympics and the Positionings of Maasai Warriors	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Nilo-Ethiopian Studies	6. 最初と最後の頁 27-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Motoji Matsuda	4. 巻 251-252
2. 論文標題 Communaute et violence de rue a Nairobi	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Diogene	6. 最初と最後の頁 103-117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3917/dio.251.0103	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 太田 至	4. 巻 90
2. 論文標題 「アフリカ潜在力」に関する研究プロジェクトの成果と展望 (学会通信)	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 アフリカ研究	6. 最初と最後の頁 93-95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Oyama, S.	4. 巻 69 (1)
2. 論文標題 Hunger, poverty and economic differentiation generated by traditional custom in villages in the Sahel, West Africa	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Human Geography	6. 最初と最後の頁 27-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4200/jjhg.69.01_027	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山田 肖子	4. 巻 91号
2. 論文標題 学習者が選び取る職業教育パス：ガーナ国クマシ県における自動車修理関連分野の事例から	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 アフリカ研究	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11619/africa.2017.91_1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計255件 (うち招待講演 67件 / うち国際学会 111件)

1. 発表者名 Matsuda, M.
2. 発表標題 Trajectory of the African Potentials Project 2011-2021
3. 学会等名 Wrap-Up Meeting: A Ten-Year Challenge of African Potentials Project (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松田素二
2. 発表標題 差別を乗り越える方法 違いを生きる技法をアフリカ社会から学ぶ
3. 学会等名 日本学術会議公開シンポジウム 『Withコロナの時代に考える人間の「ちがひ」と差別～人類学からの提言』
4. 発表年 2020年



1. 発表者名 平野（野元）美佐
2. 発表標題 宮古島の子どもの祝いにおける貨幣と金券
3. 学会等名 日本文化人類学会第55回研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Miyachi, K.
2. 発表標題 Who Has a Right of Decision Making on Her Body?: Controversy between Female Circumcision (FC) and Female Genital Cosmetic Surgery (FGCS)
3. 学会等名 18th Asia Pacific Conference 2020: Asia Pacific and Beyond: A Pursuit for Inclusion and Innovation (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Ohta, I.
2. 発表標題 On the Ten-Year Challenge of African Potentials Project
3. 学会等名 Wrap-Up Meeting: A Ten-Year Challenge of African Potentials Project (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 竹村景子
2. 発表標題 ザンジバルのスワヒリ語諸変種に見られるマイクロバリエーション
3. 学会等名 日本アフリカ学会第57回学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 重田真義
2. 発表標題 アフリカからの学びと価値の創造：差異を楽しむ
3. 学会等名 第3回日立京大ラボ・京都大学シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松田素二
2. 発表標題 人類の未来とアフリカの潜在力-集合的創造性の可能性
3. 学会等名 長崎大学多文化社会学部シンポジウム「アフリカのレジリエンス 現代社会の困難を克服する創造性とフィールドワーク主義」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松田素二
2. 発表標題 アフリカの知恵が世界を救う世界を救う
3. 学会等名 アフリカセミナーの会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yamakoshi, G. and Soumah, A.G.
2. 発表標題 Population dynamics of chimpanzees in an isolated anthropogenic habitat at Bossou, Guinea: Lessons from 40 years' experiences
3. 学会等名 56th Annual Meeting of the Association for Tropical Biology and Conservation (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Oyama, S.
2. 発表標題 Cleaning the cities, greening the land in Niger, the Sahel: Building up circulation economy. Session of Sustainable City.
3. 学会等名 University of Bordeaux- Kyoto University-Addis Ababa Univeristy Strategic Meeting for Academic Cooperation and Kyoto University International Symposium (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Oyama, S.
2. 発表標題 Willingness to make a profit while being fearful of jealousy: The role of “piecework” in Bemba society in northern Zambia.
3. 学会等名 9th African Forum Lusaka “African Potentials” to develop alternative methods of addressing global issues (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋基樹
2. 発表標題 開発協力の思想史 - 互惠実利主義と理想主義の二項対立を超えて -
3. 学会等名 国際開発学会・人間の安全保障学会2019共催大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 落合雄彦
2. 発表標題 「クレシヤード」の110年 英領シエラレオネ植民地のアサイラム小史
3. 学会等名 日本アフリカ学会第56回学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平野（野元）美佐
2. 発表標題 現代アフリカにおける伝統文化：カメルーンの王国と王様
3. 学会等名 阪神シニアカレッジ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Miyachi, K.
2. 発表標題 Why anti-FGM Activities are not changing People's Attitudes? - The Case from Western Part of Kenya
3. 学会等名 The 17th Asia Pacific Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takeuchi, S.
2. 発表標題 Rwanda 's land law reform: Its implications for the landscape change
3. 学会等名 Land Tenure Reform in Africa and its Implication to Landscape Restoration on the Continent (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 遠藤貢
2. 発表標題 制度化なき民主体制のバックラッシュ? : サハラ以南アフリカの経験
3. 学会等名 日本政治学会 2019年度研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shigeta, M.
2. 発表標題 Development and Operation Model of Plant-derived Soil Additives for Road Disaster Reduction on Problematic Soil
3. 学会等名 Memorial Symposium for MOU between University of Florida and Kyoto University "Sustainable and Wise Use of Forest Plants in African and Asian Tropics" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Shinagawa, D.
2. 発表標題 How Sheng has been manipulated and recognized in society: focusing on the dynamism before and after 2007
3. 学会等名 International workshop: "Sociolinguistic perspectives on variation in Swahili ? New approaches to the study of language and its social context in East Africa" (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山田 肖子
2. 発表標題 アフリカの産業と教育の可能性を探る-SKYプロジェクトによる技能評価
3. 学会等名 オープンフォーラム「アフリカにおける持続可能な開発への科学技術による貢献 - 名古屋大学の挑戦」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 目黒紀夫
2. 発表標題 第4回マサイ・オリンピック：変わったものと変わらないもの
3. 学会等名 日本アフリカ学会第56回学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松田素二
2. 発表標題 アフリカ研究・文化人類学の視点から
3. 学会等名 東南アジア学会第99回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Motoji Matsuda
2. 発表標題 New Universalities and African Potentials: Alternative Methods for Addressing Human Security
3. 学会等名 The 4th World Social Science Forum(WSSF) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松田素二
2. 発表標題 アフリカにおける適用とモデル修正の試み
3. 学会等名 国際文化学会第17回全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Motoki Takahashi
2. 発表標題 Enterprise Promotion Policies in a Conflict-ridden Area in Kenya: Overcoming Vertical and Horizontal Cleavages?
3. 学会等名 Kyoto-EHESS International Symposium 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Itaru Ohta
2. 発表標題 History and Present Situation of African Studies in Japan: Uniqueness and Challenges.
3. 学会等名 IAS-HUFS, IAS - University of Bayreuth Joint Conference, "The Different and the Similar: African in an Ever-changing, Multi-faceted and Multi-layered World,"
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 太田至
2. 発表標題 難民と地元住民の対立と共生 カクマ難民キャンプの事例から
3. 学会等名 日本学術振興会ナイロビ研究連絡センター第184回セミナー
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Itaru Ohta
2. 発表標題 Potentials of Local Effort for the Conflict Prevention and Resolution in Turkana County, Kenya
3. 学会等名 ECORAd2 Training Program in Kyoto (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Misa Hirano-Nomoto
2. 発表標題 What is the Home Village for African Urban Migrants?: The case of the Bamileke, Cameroon
3. 学会等名 Seminar, EHESS-IMAF (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山越言
2. 発表標題 幽鬼の森の保全：ギニアの人為的景観に見るコンヴィヴィアリティ
3. 学会等名 科研費基盤S「アフリカ潜在力」第10回全体会議
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Gen Yamakoshi
2. 発表標題 Conservation of the bush of ghosts: Conviviality in Guinean anthropogenic landscape
3. 学会等名 8th African Forum: Accra “Futurity in African Realities”
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大山修一
2. 発表標題 ごみを使う：アフリカの砂漠化と緑地化
3. 学会等名 ゴールデン・エイジ・アカデミー『たのしく歩もう 特別企画〈環境問題を考える〉』
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 阿部利洋
2. 発表標題 南アフリカの移行期正義における意図せざる結果
3. 学会等名 東南アジア学会第99回研究大会
4. 発表年 2018年



1. 発表者名 阿部利洋
2. 発表標題 ルイボス利用の権利は誰に帰属するか
3. 学会等名 科研費基盤S「アフリカ潜在力」国家・市民班第6回研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Daisuke Shinagawa and Nico Nassenstein
2. 発表標題 Toward a 'state of the art': Variation in Swahili, current approaches, trends and directions
3. 学会等名 The 7th International Conference of Bantu Languages (Sintu7) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Toshio Megro
2. 発表標題 Misrepresentation and appropriation of cultural "innovation" by neoliberal conservation alliance: The Case of the Maasai Olympics
3. 学会等名 International Symposium on African Potentials and the Future of Humanity (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Wakana Shiino
2. 発表標題 The House girl by choice or the circumstances in Kenya and Uganda
3. 学会等名 International Symposium on African Potentials and the Future of Humanity (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 竹村景子、宮崎久美子
2. 発表標題 ザンジバルにおけるスワヒリ語諸変種の間係を探る新たな試み
3. 学会等名 スワヒリ語諸変種研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kaori Miyachi,
2. 発表標題 Diversification of “Family Care” for Elderly Women in Rural Kenya : Consideration of Potentials beyond “Family”
3. 学会等名 18th IUAES (International Unions of Anthropological and Ethnological Sciences) World Congress, (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takehiko Ochiai
2. 発表標題 Customary Land Tenure and Large-Scale Land Acquisitions in Sierra Leone: What May Change or Remain the Same under Land Reform,
3. 学会等名 The 8th Humanities Korea International Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shinichi Takeuchi
2. 発表標題 Land registration in Rwanda: The motivations and consequences
3. 学会等名 African Studies Association annual meeting (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松田素二
2. 発表標題 アフリカの潜在力が現代世界を救う
3. 学会等名 平成29年度 京都大学アフリカ地域研究資料センター公開講座 シリーズ アフリカ潜在力
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Matsuda, Motoji
2. 発表標題 Opening Remarks for the 7th African Potentials Forum at Rhodes University
3. 学会等名 7th African Forum: Grahamstown (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 太田至
2. 発表標題 アフリカ潜在力：他者とのつきあい方をアフリカ人に学ぶ
3. 学会等名 平成29年度 京都大学アフリカ地域研究資料センター公開講座 シリーズ アフリカ潜在力
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 重田真義
2. 発表標題 アフリカの村で考えた来るべき社会の姿：国際社会との共生「長い尻尾のはなし
3. 学会等名 特別シンポジウム：人材大変革時代の大学における知の多様化にむけて
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 重田真義
2. 発表標題 アフリカから学ぶこと
3. 学会等名 大津市立小松小学校国際理解授業（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 峯陽一
2. 発表標題 人間の安全保障論の射程 「壊れもの」としての人間
3. 学会等名 国際ジェンダー学会2017年大会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 遠藤貢
2. 発表標題 ソマリア：連邦制への現状と課題
3. 学会等名 日本アフリカ学会第54回学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 平野（野元）美佐
2. 発表標題 都市に生きる人びとの潜在力：カメルーンの小さな仕事から見えてくるもの
3. 学会等名 平成29年度 京都大学アフリカ地域研究資料センター公開講座 シリーズ アフリカ潜在力
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山越言
2. 発表標題 自然保護と人びとの潜在力 畏れる力と何もしない力
3. 学会等名 平成29年度 京都大学アフリカ地域研究資料センター公開講座 シリーズ アフリカ潜在力
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Oyama, Shuichi
2. 発表標題 Autonomy and authority of chiefs regarding administration of customary land in Zambia
3. 学会等名 60th annual meeting of African Studies Association. Land Reform, Rural Changes, and Political Power in Africa (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大山修一
2. 発表標題 社会変化のなかでの潜在力：アフリカで忠誠心を考える
3. 学会等名 平成29年度 京都大学アフリカ地域研究資料センター公開講座 シリーズ アフリカ潜在力
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大山修一
2. 発表標題 西アフリカ・サヘル帯における農耕民と牧畜民間の紛争予防の試み：作物の食害に起因する武力衝突の回避と交渉に着目して
3. 学会等名 日本オセアニア学会第35回研究大会、アフリカ学会・オセアニア学会合同シンポジウム「紛争と共存をめぐるローカルな対処 オセアニアとアフリカの事例から」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Abe, Toshihiro
2. 発表標題 A catalytic policy elicits positive deviants
3. 学会等名 7th African Forum: Grahamstown (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 阿部利洋
2. 発表標題 南アフリカの和解政策をどのように評価するか
3. 学会等名 日本オセアニア学会第35回研究大会、アフリカ学会・オセアニア学会合同シンポジウム「紛争と共存をめぐるローカルな対処 オセアニアとアフリカの事例から」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shiino, Wakana
2. 発表標題 'Family' Circumstances Supported by House Girl in Nairobi
3. 学会等名 International symposium "Family Transformation in Rapidly Developing Asia-Africa Societies Faced with Economic Disparity, Urbanization and War" (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 永原陽子
2. 発表標題 ジェンダーと史料から考える『植民地責任』 マウマウ訴訟とその後
3. 学会等名 国際基督教大学ジェンダー研究センター 『「過去の克服」とジェンダー・セクシュアリティ研究』(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Nagahara, Yoko
2. 発表標題 Colonial Soldiers/Laborers in Southern Africa during WWI: Transnationality and Continuity in Mobilization
3. 学会等名 DAAD-JSPS Project: Entangled Pasts in the Global Present: Gender, Labor & Citizenship, Project Kick-Off Workshop: Labor and Citizenship in the Twentieth Century (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山田肖子
2. 発表標題 学習者が選び取る技能形成の手段：ガーナ国クマシの職業教育訓練機関の自動車修理関連分野の学生の場合
3. 学会等名 日本アフリカ学会第54回学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 落合雄彦
2. 発表標題 アフリカ植民地精神医学史研究事始め
3. 学会等名 日本アフリカ学会第54回学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Takeuchi, Shinichi
2. 発表標題 African Enclosure in the Context of Land Law Reforms
3. 学会等名 African Studies Association 60th Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松田 素二
2. 発表標題 抵抗論の現在
3. 学会等名 日本文化人類学会次世代育成セミナー－東日本会場
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Motoji Matsuda
2. 発表標題 African Potentials to Develop Alternative Methods of Addressing Global Issues
3. 学会等名 6th African Forum Kampala: African Potentials to Develop Alternative Methods of Addressing Global Issues (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Yoichi Mine
2. 発表標題 How Nations Resurge?: Overcoming Historical Inequalities in South Africa
3. 学会等名 The 9th Seminar of ESP Political Economy Group (C01) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yamada Shoko
2. 発表標題 Domesticating Democracy? Civic and Ethical Education Textbooks IN Secondary Schools in the Democratization Period of Ethiopia
3. 学会等名 6th African Forum Kampala: African Potentials to Develop Alternative Methods of Addressing Global Issues (国際学会)
4. 発表年 2016年



1. 発表者名 Takahashi Motoki
2. 発表標題 African Potential beyond Dichotomy: Local Quest for National Integration?
3. 学会等名 6th African Forum Kampala: African Potentials to Develop Alternative Methods of Addressing Global Issues (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Miyachi Kaori
2. 発表標題 Aging in Africa: The Life of Elderly Women in Rural Kenya
3. 学会等名 6th African Forum Kampala: African Potentials to Develop Alternative Methods of Addressing Global Issues (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Wakana SHIINO
2. 発表標題 The Condition of Single Women in the Rural Kenya and Social Changes
3. 学会等名 国際研究会「グローバル社会における多様な「シングル」の共存にむけて」(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山越 言
2. 発表標題 アフリカ自然保護の現場が要請する地域研究アプローチ 京大のアフリカ研究60年の経験から
3. 学会等名 日本学術会議 公開シンポジウム「地域研究の意義を考える」(招待講演)
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計188件

1. 著者名 Ohta, I., Nyamnjoh, F.B. and Matsuda, M. (eds.)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Langaa RPCIG	5. 総ページ数 332
3. 書名 African Potentials: Bricolage, Incompleteness and Lifeness	

1. 著者名 Endo, E., Ato K. Onoma and M. Neocosmos (eds.)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Langaa RPCIG	5. 総ページ数 290
3. 書名 African Politics of Survival: Extraversion and Informality in Contemporary World	

1. 著者名 Yamada, S., Takada, A. and Kessi, S. (eds.)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Langaa RPCIG	5. 総ページ数 388
3. 書名 Knowledge, School, and Social Structure in Africa	

1. 著者名 Ochiai, T., Hirano-Nomoto, M. and Agbiboa, D. E. (eds.)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Langaa RPCIG	5. 総ページ数 277
3. 書名 People, Predicaments and Potentials in Africa	

1. 著者名 Takahashi, M., Oyama, S. and Ramiarison, H. A., (eds.)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Langaa RPCIG	5. 総ページ数 409
3. 書名 Development and Subsistence in Globalising Africa: Beyond the Dichotomy	

1. 著者名 Takemura, K. and F. Nyamnjoh (eds.)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Langaa RPCIG	5. 総ページ数 326
3. 書名 Dynamism in African Languages and Literature: Towards Conceptualisation of African Potentials	

1. 著者名 Meguro T., Ito C., Kariuki Kirigia(eds.)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Langaa RPCIG	5. 総ページ数 374
3. 書名 'African Potentials' for Wildlife Conservation and Natural Resource Management	

1. 著者名 Shiino W., Christine Mbabazi Mpyangu(eds.)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Langaa RPCIG	5. 総ページ数 364
3. 書名 Contemporary Gender and Sexuality in Africa: African-Japanese Anthropological Approach	

1. 著者名 Ofosu-Kusi, Y. and Matsuda, M. (eds.)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Langaa RPCIG	5. 総ページ数 276
3. 書名 The Challenge of African Potentials: Conviviality, Informality and Futurity	

1. 著者名 Chitonge, H. and Mine, Y. (eds.)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Langaa RPCIG	5. 総ページ数 406
3. 書名 Land, the State and the Unfinished Decolonisation Project in Africa: Essays in Honour of Professor Sam Moyo	

1. 著者名 Gebre Yntiso, Itaru Ohta and Motoji Matsuda (eds.)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Langaa RPCIG	5. 総ページ数 xvi+432
3. 書名 African Virtues in the Pursuit of Conviviality: Exploring Local Solutions in Light of Global Prescriptions	

〔産業財産権〕

〔その他〕

「アフリカ潜在力」と現代世界の困難の克服：人類の未来を展望する総合的地域研究ホームページ(日本語) <https://www.africapotential.africa.kyoto-u.ac.jp/mms/index.html>

「アフリカ潜在力」と現代世界の困難の克服：人類の未来を展望する総合的地域研究ホームページ(英語) <https://www.africapotential.africa.kyoto-u.ac.jp/mms/en.html>

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山越 言 (Yamakoshi Gen)  (00314253)	京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・教授  (14301)	
研究分担者	大山 修一 (Oyama Shuichi)  (00322347)	京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・准教授  (14301)	
研究分担者	竹村 景子 (Takemura Keiko)  (20252736)	大阪大学・言語文化研究科(言語社会専攻、日本語・日本文化専攻)・教授  (14401)	
研究分担者	椎野 若菜 (Shiino Wakana)  (20431968)	東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授  (12603)	
研究分担者	峯 陽一 (Mine Yoichi)  (30257589)	同志社大学・グローバル・スタディーズ研究科・教授  (34310)	
研究分担者	高橋 基樹 (Tkahashi Motoki)  (30273808)	京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・教授  (14301)	
研究分担者	落合 雄彦 (Ochiai Takehiko)  (30296305)	龍谷大学・法学部・教授  (34316)	
研究分担者	平野 美佐(野元美佐) (Hirano Misa)  (40402383)	京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・准教授  (14301)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	宮地 歌織  (Miyachi Kaori)  (40547999)	佐賀大学・芸術地域デザイン学部・客員研究員    (17201)	
研究分担者	太田 至  (Ohta Itaru)  (60191938)	京都大学・アフリカ地域研究資料センター・名誉教授    (14301)	
研究分担者	武内 進一  (Takeuchi Shinichi)  (60450459)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授    (12603)	
研究分担者	遠藤 貢  (Endo Mitsugi)  (70251311)	東京大学・大学院総合文化研究科・教授    (12601)	
研究分担者	重田 眞義  (Shigeta Masayoshi)  (80215962)	京都大学・アフリカ地域研究資料センター・教授    (14301)	
研究分担者	品川 大輔  (Shinagawa Daisuke)  (80513712)	東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授    (12603)	
研究分担者	永原 陽子  (Nagahara Yoko)  (90172551)	京都大学・文学研究科・教授    (14301)	
研究分担者	山田 肖子  (Yamada Shoko)  (90377143)	名古屋大学・アジア共創教育研究機構（国際）・教授    (13901)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	阿部 利洋  (Abe Toshihiro)  (90410969)	大谷大学・社会学部・教授    (34301)	
研究分担者	目黒 紀夫  (Meguro Toshio)  (90735656)	広島市立大学・国際学部・准教授    (25403)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	ニヤムンジョ フランシス  (Nyamnjuh Francis)		
研究協力者	キルミラ エドワード  (Kirumira Edward)		
研究協力者	ネオコスモス マイケル  (Neocosmos Michael)		
研究協力者	ムクツ ケネディ  (Mkutu Kennedy)		
研究協力者	ゲブレ インティソ  (Gebre Yntiso)		

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	シチョネ オーウェン  (Sichone Owen)		
研究協力者	オフォスクシ ヤウ  (Ofosu-kusi Yaw)		
研究協力者	ワサラ サムソン  (Wassara Samson)		
研究協力者	モヨ サム  (Moyo Sam)		

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計7件

国際研究集会 Wrap-up Meeting: A Ten-Year Challenge of African Potentials Project	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 9th African Forum: Lusaka (Zambia)	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 International workshop on indigenous manufacturing in Africa	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 8th African Forum in Accra	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 International Symposium on African Potentials and the Future of Humanity	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 7th African Forum:Grahamstown	開催年 2017年～2017年
国際研究集会 6th African Forum: Kampala	開催年 2016年～2016年



## 8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
南アフリカ	University of Cape Town	STIAS	Rhodes University	
ケニア	United States International University			
エチオピア	Addis Ababa University			
ガーナ	UENR	University of Cape Coast		
ザンビア	Copperbelt University	University of Zambia		
カメルーン	University of Yaounde			
マダガスカル	University of Antananarivo			
セネガル	CODESRIA			
南スーダン	University of Bahr El Ghazal			
ウガンダ	Makerere University			